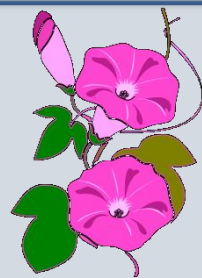


かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援担当
TEL：0556-22-8154
HPでもご覧になれます

所在地：南巨摩郡富士川町鵜沢 771-2
FAX：0556-22-8144

☞ URL：<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

峡南地域教育推進連絡協議会 (地推協)

総会開催

7月9日(火)に身延町総合文化会館において、平成25年度の峡南地域教育推進連絡協議会(地推協)の総会が開催されました。6月に行われた理事会の審議事項に基づいて、会長及び副会長をはじめ理事、委員など関係者37名が出席し、平成24年度の事業・決算報告と新役員について承認されました。続いて平成25年度の事業案と予算案の審議が行われ、いずれも承認されました。今年度は、まず地域教育フォーラムとして、家庭教育をより充実させることを目指し、読書活動を通しての家庭の絆づくりである、『家読(うちどく)』について考える内容の事業を下欄の通り行います。さらには、異校種連携事業の一層の推進支援とセミナーの実施(11月)、子育て学習会の実施



(2月)、本情報紙(『かけはし』)や教育相談リーフレットの発行とそれぞれの内容充実といった各事業について進めていくことになりました。

◆平成25年度の主な地推協役員

- 会長 丹澤 葉子氏 (市川三郷町教育委員長)
- 副会長 田草川 眞氏 (富士川町教育委員長)
- 同 堀口 広秋氏 (富士川町教育長)
- 同 小林 学氏 (身延山高等学校長)
- 同 大沢 栄子氏 (富士川町立鵜沢小学校PTA会長)

※地推協の事業等については、市川三郷町教委生涯学習課(25年度事務局)または峡南教育事務所までご連絡ください。

◆かけはし119号の内容◆

- 1p 平成25年度地推協総会・人権講演会
- 2p 南部あじさいまつり・砂防教室
- 3p 保幼小連携・南部4所サッカー教室
- 4p 国文祭早川雨畑硯を訪ねて

人権講演会～いじめ問題に対して～

地推協総会后に、同じ建物の2階に会場を移して峡南教育事務所主催による平成25年度人権講演会が開催されました。今年度は、昨今の大きな教育課題となっている「いじめ問題」について、山梨大学教育人間科学部の高橋英児准教授を招いて、その問題の本質と対応について考えました。

この講演の中で高橋准教授は、いじめの実相と背景について多角的なとらえ方ができることを強調し、いじめ問題について固定的な見方や原因の追及にとどまることの危険性を指摘しました。また、現代のいじめにおいても被害者と加害者が簡単に入れ替わることがあることや、いじめを行う子どもを「困った子」ではなく「困っている子」としてとらえることの必要性などを訴え、学校だけでなく地域が積極的に関わることで、子どもや家庭を救うことの可能性のあることを強調しました。

なお、この講演会の内容については、次号の『かけはし』で概要をお伝えする予定です。

平成25年度 峡南地域教育フォーラム

地推協ではその活動の大きな柱の一つとして、地域教育フォーラムを毎年開催しています。子どもや学校と地域とを結んで、様々なテーマにそって考える機会としてきました。今年度は、しなやかな心の育成プロジェクトの中でも呼びかけている、「家読(うちどく)」について、その具体的な在り方や意義を学び、より豊かなコミュニケーションの実践について考えていきたいと思えます。

- ◆期日：平成25年8月27日(火) 午後1:30～4:20 (受付 午後1:00～)
- ◆会場：身延町総合文化会館(2F 会議室)
- ◆内容：講演会 「家族の絆を深める“家読(うちどく)”で読みニケーション」



家読推進プロジェクト代表 佐川 二亮 氏
実践発表 「読書で育む家族の絆」

埼玉県三郷市教育委員会学校教育部長 星 健次郎 氏

- ◆申込：峡南教育事務所 地域教育支援担当 (TEL 0556-22-8154) までご連絡ください。

なお、学校・教育委員会等からは、所定の用紙に取りまとめて8月6日(火)までお願いします。

シリーズ『峡南地域の祭事探訪』(21) ～南部あじさいまつり～

7月に入って非常に厳しい暑さが続いています。ただ7月6日の関東甲信地方の梅雨明け宣言がなされるまでは、「今年の梅雨は、カラ梅雨か…」と一部で渇水への思案顔が見られたり、逆に6月末から曇りがちになって急な湿気に悩まされたりする様子もみられました。どうしても梅雨時には特有の鬱陶しい雰囲気にも包まれがちですが、そうした中で明るい気持ちをもたらしてくれるのが、やはり色鮮やかなあじさいの花々でしょう。

この時期には、各地で見事に咲くあじさいがみられますが、峡南地域にも各地に見事なあじさいの名所があります。この中で今回は「南部あじさいまつり」について紹介します。

平成5(1993)年に、旧南部地内の町並みを一望できる小山の頂上に公園を整備することになり、多くの桜の苗木が植えられました。しかし、桜が

咲きき揃うまでには時間がかかることもあり、地域の有志の方々によってさらにあじさいの苗木が植えられました。県内でも有数の規模を誇る

ようになった平成13(2001)年に、第1回目の「南部あじさいまつり」が開かれ、たいへんな好評を博すこととなりました。これがその後の地道な手作りの積み重ねによって、現在約90種類3万株まで広がり、訪れた多くの人の心を和ませる名所となっているのです。

このお祭りの特徴はやはり、有志の方々が自主的に地域の活性化を図って進めていることと、その手作り感にあると思われます。現在、およそ40人の「あじさい花の会」のメンバーが中心となって日頃の手入れや整備を進めています。今後、会への多くの参加者があればと期待しているそうです。

静岡市から来たご夫婦は、豊かな自然と見事なあじさいが毎年とても楽しみだと話してくれました。

地域を受け継ぐ子どもたちのお祭りへの参加や、南部町で力を入れている「俳句」をお祭りに取り入れるなど、新しいアイディアの声も聞かれます。より多くの人々によってよりさまざまな工夫がなされることでさらに特色ある地域のお祭りとして引き継がれていくことが期待できると思われました。



「みんなで防ごう土砂災害」移動教室

南部町立
富河小学校

南部町の富河小学校(小林一徳校長)で、6月19日に今年度の土砂災害防止に関する移動教室が行われました。これは、県の峡南建設事務所が、毎年6月の土砂災害防止月間にもなって、土石流や地滑り、崖崩れなどの土砂災害の防止のために、子どもたちに対して実施する教育活動です。

富河小学校では、音楽教室を会場に4年生と5年生(41人)の合同授業として、建設事務所から7人の職員が訪れて行われました。

まず、土砂災害についての基本的な知識と具体的

な防災対策に関することがらをビデオや砂防読本を通して学んだあと、次に一人ひとりが土砂災害から身を守るための留意事項について確認



しました。

このほか、川の遊び方についてその魅力や楽しむための観点の紹介のあと、それに加えて川の安全について気をつけなければならないことを学びました。

また、同時に配付された簡易雨量計による気象観測の方法などについても教わりました。

そして、模型を使った土石流実験では、土砂災害の威力や恐ろしさとそれに対する砂防ダムの大きな役割を目の当たりにすることができました。

「土砂災害の恐ろしさやその前兆、砂防ダムの大切さなどを家族や下級生にも伝えたい」「川の遊び方や模型実験などとても興味深かった」、建設事務所職員への厚い感謝の気持ちとともに子どもたちの率直な感想と活発な意見が、述べられました。



学びをつなぐ保・幼・小連携

西島小学校（古屋興一校長）では、今年度から県幼児教育振興事業「保幼小連携教育」に取り組むことになり、その中の連携・交流活動の一環として、地元保育所（園）の保育士を迎えて1・2年生の授業参観と懇談会を7月2日に行いました。

1年生(15人)、2年生(6人)のそれぞれの児童の出身保育所(園)である、身延町の西嶋保育所・静川保育所と市川三郷町の定林寺立正保育園の3か所から保育士が参加して、成長した児童の様子を参観した後、懇談会が行われました。

懇談会では小学校から児童の学習や生活の様子が報告され、一方の各保育士からは保育所における生活の様子、健康面や気をつけて指導してきたことなどについて語られました。また、保育所(園)で培ってきたきめ細かな



懇談会の様子

元気いっぱい！サッカー教室

6月12日に、南部地区4保育所合同の「キッズ巡回サッカー教室」が富河保育所で行われました。これは山梨県サッカー協会が、サッカーの普及と子どもたちにスポーツに慣れ親しんでもらうことを目的として県内各地の保育所(園)や幼稚園を訪問して実施しているもので、峡南地域でもあちこちの保育所や幼稚園で開催されています。

南部町では数年前から4保育所合同による恒例の行事として行われてきました。年長期クラスの子どもたちにとって、欠かすことのできないたいへん待ち遠しい行事となっています。今年は富河保育所の園庭が会場となっていました。あいにくの天候のため、すぐ近くの旧富河中学校体育館で行われました。



コーチとのミーティング

子育て支援リーダー・ステップアップ講座開講

県社会教育課が山梨県立大学と連携して行う「子育て支援リーダー・ステップアップ講座」に県内から41名の受講者があり、峡南地域からも6名(市川三郷町4名・富士川町2名)が参加しています。この講座は、これまでの「子育て支援リーダー養成講座」受講修了者で、地域で子育て支援活動を行っている方などが対象です。講座では、地域の人間関係の変化に伴う子育てへの不安感を解消するために、家庭教育・子育てにおける今日的な課題について講義と実技演習を主体とした研修を進め、子育て支援者の養成と資質向上を目指します。

7月1日の第1回講座では、「子育て支援の現在

身延町立西島小学校 西嶋保育所・静川保育所・定林寺立正保育園



1年生の授業参観

指導を今後どのように小学校につなげていくことがよいのか、その手だてなどについても話し合われました。さらに、小学校入学に際して相互の情報交換を行うことと、幼児と児童の双方に実りのある交流活動を作っていくこと、小学校に入学する際の「小1プロブレム」を解決し接続をスムーズにしていくことなどを確認しました。

参加した先生方からは、「こういう交流をしていく機会が持てて良かった」「元気で頑張っている卒園児の様子が分かり安心した」「是非、3月にもこのような機会を設けて、新入生の様子をしっかりと伝えたいと思う」という感想が述べられていました。



2年生の授業参観

南部町 富河・睦合・栄・万沢 保育所

バスであつまった4保育所の年長クラスの子どもたちは、ヴァンフォーレ甲府から来てくれた二人のスタ



大喚声！

ッフ(もぐらコーチとひよこコーチ!)の指導のもと、準備体操、ボール遊び、ドリブルの練習など夢中になって取り組みました。終わりにはチームに分かれてゲーム形式の対戦もしました。

「他の園のお友達とのボールの取りっかが楽しかった、試合が楽しかった！」帰りにお迎えに来たおうちの人に対してみんな口々に報告したそうです。みんなとてもいい汗をかいて、サッカーが大好き、ヴァンフォーレ甲府が大好きになりました。そして、他の保育所の友達との輪が大きく広がって、忘れられない一日になりました。

(写真はいずれも富河保育所提供)

と私たちの課題」をテーマに、まず県立大学人間福祉学部池田政子特任教授による山梨の子育て支援20年の歴史や新聞記事をもとにした、山梨における子育ての課題についての講義が行われ、次にそれをふまえて受講者のグループワークによるそれぞれの立場や経験からの“現状”と“課題”が発表されました。この講座は10月まで9回行われ、ステップアップした修了者は地域で子育て支援活動を推進していくことになります。なお、第4回は公開講座になっています。

(次ページ下のお知らせをご覧ください)



山梨の宝、雨畑硯を訪ねて

早川町「フォッサマグナの恵み体験ツアー」



今年度、第28回国民文化祭が県内各地で通年開催されています。豊かな文化的財産や自然環境に恵まれた峡南各地域でも、お知らせしているとおりそれぞれ工夫を凝らした催し物が繰り広げられ、冬から春のステージでは、内船歌舞伎（南部町）、和太鼓と山車巡行（富士川町）などが開催されました。

そして、幅広い文化体験の機会として早川町の「フォッサマグナの恵み体験ツアー」が、4月中旬から6月上旬の長期にわたって行われました。週末に設定された10回にわたるツアーは、早川町の豊かな自然と文化に接することのできるきわめて貴重な体験となったといえます。

国の天然記念物に指定されている「新倉断層露頭」を観察するツアーと、全国的に名をはせる「雨畑真石硯」の体験ツアーの2本立てで行われましたが、断層観察は延べ105人、硯体験は延べ73人にのぼる多数の参加によって盛況のうちに終了しました。



硯体験の最終回となる6月8日には県内外から19人の方が参加しました。雨畑湖のほとり「硯匠庵」入り口に設けられた受付に集合した参加者は、スタッフ紹介と日程説明を受けた後、早速バスに乗り込み雨畑真石の採石所へと出発しました。雨畑川にそって20分程上流へ向かうと川縁の採石場がある場所に着きます。参加者はヘルメットと長靴を身に付け、数人ずつのグループで坑道への案内を受けました。

案内に立つ天野さんは硯匠庵の硯工。数年かけて掘り進んでいる坑道の様子を詳しくお話してくださいました。



フォッサマグナの特殊な地形の中で形成された質のよい粘板岩が、限られた狭い範囲からのみ産出され、これが雨畑真石として優れた硯になります。「鋒鋳(ほうぼう)」と呼ばれる細かなヤスリ状の凹凸が非常に細かくしかも数多く

しっかりそろっていて墨が吸い付くようになっていて、適度な硬度で長持ちすること、そして水分の吸収が少ないため「水持ち」が大変よいことなど、墨を擦る上で突出した性質を持っているところにその特長があります。坑道の外には原石が多数散らばっていて、参加者は手にとってその質感を確かめていました。

雨畑湖に戻り、昼食を取った後には硯匠庵で硯彫り体験ができました。

専用の道具を使って、墨を溜める部分を削り、形が整ったところで何種類ものヤスリがけをします。裏面に記念の銘を入れて、最後に丁寧にワックスがけをすれば、輝く自分だけの硯のできあがりです。



参加者はその過程で石のなめらかなぬくもりに触れながら、モノを作り上げる楽しさを味わうことができました。そして、山梨と峡南地域が誇る「雨畑真石」の価値をじかに確かめることができたことだと思います。神奈川県の小田原市から参加したご家族は、「子どもが書道をやっていることもあってとても意義深い経験ができました」、「とても楽しかった」と笑顔で感想を話してくれました。

雨畑真石の硯は、まさに地域の至宝といえる貴重な価値を持つものといえます。

子育て支援リーダー・ステップアップ講座 「公開講座」のお知らせ

前述のとおり県教育委員会では、県内各地の子育て支援者のための「子育て支援リーダー・ステップアップ講座(全9回)」を実施していますが、第4回は「家族の今」と題する公開講座になります。子育て支援関係者、行政担当者、小学生や乳幼児の保護者のみなさまなど、多くの方々の参加をお待ちしております。

申込みは不要で、午前のみ・午後のみ参加も可能です。

- ◆日時 8月4日(日)受付 9:30~10:00 公開講座 10:00~16:30
- ◆場所 山梨県立大学 飯田キャンパス講堂(甲府市飯田 5-11-1)
- ◆内容 ワークショップ「子育て支援と音楽」・昼食を兼ねて受講者交流会
シンポジウム「家族の今と私たちの実践」・私の子育て支援紹介
- ◆お問い合わせ・県教委 社会教育課 TEL055-223-1772

😊 編集後記 😊

高等学校などでは、多くの機会を通して学校の様子を内外に発信していますが、生徒の生き生きとした姿は各種目のスポーツ大会や学園祭などでうかがうことができます。学園祭の開催は春と秋の2つのシーズンが主流ですが、6月には身延高校と市川高校で開催されました。次号のかけはして2校の学園祭の様子をお伝えする予定です。また、オープンスクールや学校説明会などの様子についても随時お伝えしていきます。